

Reports

フランス料理教室

平成28年7月30日にフランス料理教室を並木交流センターで実施しました。フランス出身のオード・マカリさん、マドレーン・ルーさんを講師としてお招きし、ナスのキャビアと鴨の胸肉、ジャガイモとにんじんのソテー & オリーブと鶏肉のクリーム煮、塩バターキャラメルりんごタルトというフランスの家庭料理を3品作りました。また、今回はJAつくば市様の御協力で、野菜を提供していただきました。



ホームステイ

平成28年7・8月に筑波大学TAGプログラムに参加している留学生のホームステイプログラムを実施しました。参加した学生は、各家庭での温かいもてなしを通して、日本の文化等を体感するとともに、ホストファミリーとの楽しい思い出ができたようです。



Notice Board

つくば市国際交流協会 賛助会募集！

賛助会では、協会の活動の趣旨にご賛同いただけるみなさまからの資金面でのご支援を募っております。

賛助会費

個人：1口 2,000円／年
団体：1口 10,000円／年
法人：1口 20,000円／年

平成28年度賛助団体及び法人
(平成29年3月1日現在) (敬称略)

(株)相澤建築設計事務所、浅野物産(株)、朝日印刷株式会社、医療法人健佑会、(有)光測量設計、(株)高田工務店、星田建設工業株式会社、(株)大和田建設、JCOS、TIVONAの会、(有)丸市物産、つくば市ジオパーク推進室 計12件

※その他運営面を支援いただく各種ボランティアがごいます。詳しくは当協会HPをご覧ください。



加入記念グッズは「たためるマチ付きトートバック」5色。
お好きなカラーをお選び下さい。

編集・発行



(一財)つくば市国際交流協会
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻1-10-1 つくばイノベーションプラザ内
TEL:029-869-7675 FAX:029-852-5513
ホームページ: <http://www.inter.or.jp/index.htm> メールアドレス: info@inter.or.jp

つくばワールドフットサル2016

スポーツを通じた国際交流を目的として、2016年11月26日に鹿島アントラーズアカデミーセンターで開催しました。当日は400名近くの参加者が集まり、フットサルを通じた国際交流を楽しんでいました。



英語スピーチ・プレゼンテーション大会

3年目になる当大会には、つくば市内の中学生43名が参加しました。筑波大学留学生26名とペアになった参加者は、つくばをテーマにした発表原稿と一緒に完成させ、練習し、2日目の最後に発表をしました。この大会は語学初心者が外国語やペアになった留学生の母国について知ったり、コミュニケーションの大切さを学んだりすることを目的としていますが、それぞれ得たものが多く、有意義な機会となった様子でした。



世界お茶のみ話(毎月第3土曜日開催)のお知らせ

つくば市には、実に多くの国の人が住んでいます。また、世界で活躍する日本の人も多く、ひとり一人様々な背景を持っています。「世界お茶のみ話」では、ゲストの母国の歴史、文化、国の現状と課題、課題に対する考え方や取り組み、つくば(日本)との係わりなどを紹介し、参加者全員で話し合います。平成29年3月から毎月第3土曜日(15:45～17:15)に開催します。

◆日時：2017年3月18日(土)(以降、毎月第3土曜日) 15:45～17:15

◆場所：Bivi2階交流サロン

◆参加費：無料

Link!

第5号

Contents — もくじ —

- P1 **Hot Topic!**
2016 日韓青少年交流
- P2 インタビュー企画「種まく人」
つくば市国際交流協会理事
布浦 万代氏
- P3 **Zoom Up!**
① 英語観光ガイドボランティア養成講座
② 医療通訳養成講座
- P4 Reports & Notice Board

Hot Topic!

2016 日韓青少年交流

昨 年12月26日から29日の4日間にわたって、当協会理事布浦万代氏を団長に、つくば市内9つの中学校から生徒15名及び事務局1名の合計17名が、科学や文化体験、ホームステイを通して、お互いの考えや価値観を知り、理解して将来両国の懸け橋となることを目的として韓国大田広域市を訪問しました。

初日、つくばを出発した一行は、韓国仁川空港を経由してバスで移動し、約10時間をかけて大田市に到着しました。早速行われたホストファミリーとの対面式では、ペアになる日韓の青少年が、参加者の前に出て自己紹介をするのですが、並んだお互いの距離がとても遠く、相当緊張している様子のまま2日間のホームステイがスタートしました。

2日目は韓服試着、韓方軟膏づくり(韓国韓医学研究院)、歓迎会(大田国際交流センター)、中央市場で買い物をするなどしました。この頃になるとお互いに打ち解けてきたようで、各自使える言語や翻訳アプリなどを駆使しながらコミュニケーションをとる様子が見られました。

3日目は由緒ある麻谷寺での宿坊体験を行い、お坊さんと話したりお堂を見学したり、ヨガや本作り体験などをしたりしました。最終日は「つくばで会おう」と約束して帰国しました。

参加者からは、共通の趣味がコミュニケーションの突破口になった。韓国と日本とで「同じ」ものを感じた。習慣や食文化が違った。韓国もゲーム好き。みんな優しくった。日本語を勉強している生徒が多かった。キムチなど辛いものが多かった!などの感想がありました。2017年夏には、韓国の生徒をつくばに迎えることになります。有意義な時間となるよう企画していきたいと考えています。



(平成29年3月1日発行)



種まく人 ～Seedfolks～

つくば市国際交流協会理事 布浦 万代氏

つくば市国際交流協会の理事として活動していただき、また、3年ぶりに再開されたつくば市と大田市（韓国）の中学生の交流事業である2016日韓青少年交流において団長を務めてくださった布浦万代氏にお話を伺いました。

私の歩み

もともと高校で古典の教員をしていましたが、教員を辞めてドイツに渡り、外国人に日本語を教えるはじめました。その経験が、私の国際交流や外国人への日本語教育の原点になっています。その後日本に戻った後も、はじめは東京で、その後つくばで、30年以上日本語教育に携わり、現在に至ります。

つくば市国際交流協会との関わり

つくば市国際交流協会（以下TIA）になる以前の国際交流委員会の時に役員となり、そこからずっとTIAの仕事に関わっています。

委員会時代は現在以上に市民との交流や海外との直接交流の機会が多かった印象があります。現在も引き継がれている事業もありますが、市民の方がハワイやミルピタス、ケンブリッジに行ったり、中高生がホームステイをしたりする活



動が活発でした。また、私は、茨城県国際交流協会の理事でもあるので、過去につくばで実施した外国人による日本語スピーチ大会では、茨城県国際交流協会で成功した運営方法（大きなポスターを作製する等）を取り入れる等の工夫をしました。

2016日韓青少年交流について

韓国へは何度か足を運んでいます。今回の2016日韓青少年交流事業での団長任務は初めてでした。TIAが子ども達に韓国を勉強する機会を与えることができたことはとても良いことだと思います。アンニョンハセヨ（こんにちは）というひとつの韓国語だけでは滞在期間の4日間を過ごすことができないので、ほとんど韓国語が話せない日本の中学生と、日本語が話せない韓国の中学生がどのようにコミュニケーションを取るのか大変興味深かったです。彼らのコミュニケーションは英語で補われていました。そして帰国後もSNS等で親睦を深め、日本の中学生たちは、2017年8月の韓国からの訪問をとても楽しみにしています。

現在はインターネットや図書館、テレビ等で情報を沢山手に入れることができますが、この事業を通して、実際に現地へ行く

て、人と人が交流すること、理解し合うことがどんなに大事な事とか、子ども達は肌で感じるできたと思います。

たとえば、最初の対面式ではお互い不安で距離がありました。帰国の時には抱き合って泣いて別れを惜しんでいました。現地を訪問したからこそ「生の交流」ができたわけです。メディア媒体を通してのみですと感情はなかなか見えません。実際に行き親身にされて、感動する話を聞いてくるということが国際交流の大切な部分だと思います。そして、若ければ若いほど、このような体験を通して得るものが大きいと思います。また、出発前の韓国と、帰国してからの韓国に対する子ども達の見方は

だいぶ変わったと思います。皆、この事業で韓国を訪問して良かったと口々に言いました。人間同士ですから、言葉を交わし、交流を深めることが大事ですね。理解し合うということは、顔と顔を合わせて繋がることだと思うので、そういった意味で、2016日韓青少年交流事業は本当に良かったです。

つくば市国際交流協会について

お金を出せば世界中旅行することはできますが、言葉を超えた人との交流はお金では買えません。2016日韓青少年交流事業では、観光旅行ではなかなか体験できないテンプルステイやホームステイなど色々プランが立てられ、言葉以上に交流ができるチャンスが作られたと思います。これらのことは、子どもにはできることではありませんので、TIAの果たした役割は大きく、このような筋道を作ることこそがTIAの意義であると思います。

国際交流を目指す方に対しても、現地に行き、人と会う、「生の体験」をもっと重視してほしいですね。そのために、TIAは、

2016日韓青少年交流事業で行ったように、TIAが間に入ることで生み出される国際交流の機会を作る等、TIAにしかできないことに努める

ことが必要ですね。



事業報告① ZOOM UP! 英語観光ガイド ボランティア養成講座

当協会の人気講座も今年度で3回目となりました。今年度は、7月から8月の毎週土曜日に、全6回の講座として実施しました。

例年、定員を上回る人気講座のため、今年度は同一内容の講座を同日に2回実施し、少しでも多くの方に受講していただけるようにしました。

講義の内容は、参加者同士のロールプレイや、観光ガイドをボランティアで実施している「つくば観光ガイド298」の方をゲストに招いての同時通訳演習、外国人ゲストの質問に回答する等多岐に渡ります。また、今年度は、例年行っている多くの演習に加えて、地域

外国の方々に、「つくばの魅力」等を英語で伝える観光ガイドボランティアを養成する

のお祭りに詳しい方を講師としてお招きし、神輿や山車について見識を深めるなど、年々実践的で興味深い講座となっています。講座を卒業し、ガイドボランティアに登録された方々は、まつりつくばでのガイドや稲刈り体験での英語での説明、つくばセンター広場周辺の散策での解説など徐々に活躍の場を増やしています。



事業報告② ZOOM UP! 医療通訳 養成講座

当協会では、外国人が、母語での安心した医療機関受診を可能にするため、病院等での外国人患者と日本人医療スタッフ間のコミュニケーションをサポートする「医療通訳ボランティア」を派遣しています。

2年に1度開講するその養成講座を2016年10月1日、9日、23日の全3回で実施しました。初日は茨城県立こども病院の連利博副院長をメイン講師として迎え、「医療通訳とは何か？」に関する講演や医療通訳の現状と課題に関するパネルディスカッション等を実施しました。2、3日目は神奈川県で医療通訳ボランティアの派遣において日本の最先端を走るMICかながわから講師を招き、実践的な講義とロールプレイ演習、そして最終日には試験を行いました。

約30名の受講者から今回は2名が合格し、新たなボランティアが誕生しました。試験では言語スキルの他、傾聴や患者が安心して話せる雰囲気づくり、そしてわからないことをその場で調べたり、聞き返せたりする能力など、多岐に渡る能力が重要視されました。

とても社会的使命の強いボランティア活動なので、今後も、医療機関と外国人患者の間の架け橋として医療通訳ボランティアが活躍し、外国人が安心して日本の医療を受診できる環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。



2、3日目
ロールプレイ
演習の様子



1日目 連利博副院長による講義「医療通訳とは何か？」



1日目 遠隔医療通訳システム実演